

フランスのノルド・コタンタンの研究 からの経験： 線量及びリスク 推定研究の計画および実施への ステークホルダーの参加 (仮訳)

Thierry SCHNEIDER

放射線と甲状腺がんに関する国際ワークショップ
品川プリンスホテル、東京
2014年2月21~23日

- 前後関係
- GRNCと目的の創出
- GRNの作業
- 専門家、NPOおよびステークホルダーの視点
- GRNC の結果

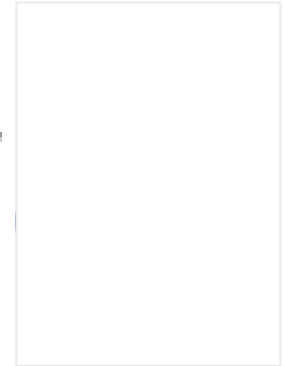
ノルマンジーのBeaumont-Hague郡



- La Hague再処理プラントは1966年に操業を開始
- Pr Viel とそのチームによる疫学研究の発表 (1995年と1997年) :
 - La Hague再処理プラントの周辺での過剰な白血病の示唆 (予想の1.4 症例に対して4症例)
 - 原因となる要因の提案
- この発表により地元住民と国民世論から強い反応

Le Monde

1997年4月17日 木曜日



La Hague est-elle mortelle ?

La Hague は致命的か？

- 健康環境省が1997年7月に下記を設置:
 - 新しい疫学研究を開始するための使節団
 - 被曝と関連のリスクを研究するための専門家グループ:

 ノルド・コタンタン放射生態学グループ – GRNC

- 以下の多元的専門家グループを含む
 - プラント会社
 - 公共的専門家
 - 地方および全国的NPO
 - 外国人専門家

- 1966~1996年の期間中の線量を再構成し、下記を使用して1978~1996年の期間中の電離放射線に伴う白血病のリスクを推定すること：
 - 工業的ソース
 - 医療実務
 - 自然的ソース

グループ内での協力の規則

- コンセンサスに到達する義務なし
- 議論のトレーサビリティ
- グループ内での情報の共有
- グループのメンバーについて守秘義務なし
- 地元のステークホルダーとの定期的なコンタクト:
 - 地元グループ「母の怒り」
 - 地元のLa Hague 再処理プラント情報委員会

- 放射能排出の明確化
- ラハーグのプラント会社、当局およびNPOからの異なった測定値の相互確認
- 実際の地元の行動に基づく被曝シナリオの設定(地元のNPOの寄稿)
- 関係するすべての当事者から認められた放射線生態学的モデル
- LNTの想定に基づく放射線の誘発する白血病のリスクの推定値

2年後のGRNC の結論 (1)

被曝源	放射線で誘発された 白血病の症例数	%
自然的	0.62	74%
医療	0.2	24.3%
核実験及び チェルノブイリ	0.01	1.5%
原子力施設	0.0019*	0.2%
合計	0.83	

2年後のGRNC の結論(2)

- 原子力施設からの排出に伴う放射線から誘発される白血病の推定数は極度に低い
- 平均的推定値であるが不確実性のマージンはまだ定量化されていない
- グループのメンバーの一部は原子力施設が、観察された過剰な白血病の原点にあるかも知れないという仮説を維持した。

1999年7月2日 金曜日

EXCLUSIF: LA HAGUE EST SANS DANGER !
(危険なし)

La Hague : le rapport qui rassure
(不安を除く報告)

Leucémies : le doute persiste
(白血病: 以前として疑いは残る)

- このグループへの参加はモデルおよび想定に関する情報を得る機会を提供した。
- このグループの幅広い構成が議論の豊富さと質を高めた。
- 協力の規則はそれぞれの参加者の互いの立場を尊重しながらの参加を可能にした。
- 結果は依然として大きな不確実性を含んでおり、また化学物質の排出も調査する必要がある。

- GRNCは原子力施設に関する情報を得るための重要なステップであった。
- 地元NPOの参加とGRNの結論は社会的信頼への主要な貢献であった。
- 我々の懸念は考慮に入れられており、我々は理解可能な情報を得た。
- 「母の怒り」は2000年秋に、移動装置による国際測定運動の組織への参加を継続することを決定した。

- 結果の発表はプロセスの終了ではなかった。
- グループの作業は以下の事柄に貢献した:
 - 定期発行物および地元のステークホルダーとのコミュニケーションを伴った地域的な医師のネットワークの主導によるがんレジストリの創設
 - 異なるソースからの測定値を含んだ環境モニタリングに関するデータベースの創出
 - 小児白血病の原点に関する全国およびヨーロッパの科学研究への反映